

職員による自己評価

A業務改善

- ・職員の業務量が多く、打ち合わせや準備の時間の確保が難しい。
- ・コロナ禍の状況で、オンラインの研修参加の工夫はしているが、充分とはいえない。

B児童への支援内容

- ・保護者のニーズやお子さんに合わせた個別支援計画を作成し、支援を行っている。
- ・他クラスや他職種と情報交換をして活動内容や環境設定を考えている。

C関係機関との連携

- ・併行先への訪問や電話連絡で情報共有をし、連携している。
- ・就学先への引き継ぎを行っている。

D保護者への説明責任等

- ・年3回の面談にて、個別支援計画の内容を説明し、確認を行っている。
- ・コロナの影響で、保護者同士の連携支援が充分ではない。

E非常時等対応

- ・月1回避難訓練（火災や地震、津波を想定）を実施している。
- ・ヒヤリハットを共有し、改善点を考え、再発防止に努めている。

保護者による評価

A適切な支援の提供

- ・「家庭とは違う場で職員目線の課題や意見をいただいている」、「活動内容やねらいを毎月のクラスだよりで発信されている」など、9割以上の方から高評価をいただいた。

B保護者への説明等

- ・「支援内容の説明や子どもに関する共通理解ができている」との意見もあったが、「もっと子どもの様子を教えてほしい」、「的確な助言がない」などの意見もみられた。
- ・コロナ禍の状況で、保護者間の交流やお子さんの様子を見る機会が少なくなった。

C非常時等対応

- ・おたよりで周知されているが、詳しい内容まではわからないとの意見も見られた。

D満足度

- ・8割以上の方から、お子さんが通園を楽しみにしているとの回答をいただいている。
- ・「一人ひとりに合う療育を考えてくれている」、「明るく話しやすい先生方に助けられている」という意見があった一方で、「もう少しためになる勉強会の内容を考えてほしい」といった意見もいただいた。

通園課内での分析

【共通点】

- ・お子さんや保護者のニーズを捉えて、お子さんの発達や特性に合わせた支援が行われている。
- ・活動プログラムの内容やねらいが保護者に周知されている。
- ・コロナ禍という状況もあるが、保護者同士の関わりや情報交換の機会が少なくなっている。

【相違点】

- ・保護者への質問に対する助言や日頃の連絡などの家族支援が不足している。
- ・職員の業務の見直しや整理、改善を必要としている。

分析・検討してみたて…

通園課の強み

- ・保護者のニーズやお子さんに応じた個別支援計画を作成し、内容を保護者へ丁寧に説明している。
- ・ねらいにそった活動プログラムを行うため、打ち合わせを重ね、毎月のクラスだよりで詳しい内容を保護者に周知している。
- ・非常時に備え、毎月、療育中に避難訓練を行っている。緊急時に対応できるように、職員でシミュレーションを行っている。

通園課の改善点

- ・よりよい支援を提供するための打ち合わせや準備、職員の専門性を高めるための研修に時間を費やせるよう、職員の業務を整理していく。
- ・感染症対応をしながらも、保護者同士の連携支援の取り方を検討していくことが必要である。
- ・昨年度に続き、保護者への非常時や緊急時などのマニュアルの周知方法を考えていく。

通園課の改善への取り組み

- ・業務効率化を意識し、充実した職員研修を実施する。
- ・感染症予防に配慮した行事の実施方法やオンラインを活用した取り組みを実施する。
- ・職員間や保護者会を通して、保護者同士の連携支援の検討を行う。
- ・非常時や緊急時などのマニュアルを懇談会や毎月のクラスだよりで周知していく。

～自己評価を行っての通園課としての感想など～

令和3年度も新型コロナウイルスの対応により、行事の中止や変更などがあり、保護者の皆様のご理解とご協力に大変感謝しています。

評価結果やご指摘いただいたご意見を職員で共有し、今後もお子さんや保護者の皆様が、安全に安心して通園で過ごすことができ、より満足していただけるよう取り組んでいきます。

また、電子アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。